



いたる努力はなされているもの、解決されないものと考えられている。この教会は二年前、主任教区の方針がもっと明確化され、活動がより効果的になることを望んでいた。また、司祭との対話の必要が今さらのように痛感される。

西陣教会(京都南)——以前は小教区運営に当り、司祭と信徒の役割は明確に区別されており、余り問題はなかったが、現在ではこの両者の密接な結び付きが求められていると思う。これについて教団討論した。当教会では、毎月一回連絡協議会があり、教会運営について司祭と対話する機会が一応は存在する。ただし、その対話が実感として、心のふれあいとして対話の必要を否定する人は、賛否さまざまなものはないが、そのための対話が、すべての人に開かれることが望ましい。司祭は多く向上につながるが云う者もあったが、司祭は必ず時間を持つと答えた。また、信徒間の対話を場として、以前に奉仕すべきである。また、信徒は、もっと自分の教会を自分で築くという自覚をもつて、無理のない範囲で、せい一杯、教会に奉仕すべきである。また、自分たちの力で教会を維持し、邦人の司祭の育成に努力すべきである。

司祭が宣教会から邦人にいたる努力はなされているもの、解決されないものと考えられる。この教会は二年前、主任教区の方針がもっと明確化され、活動がより効果的になることを望んでいた。また、司祭との対話の必要が今さらのように痛感される。

途で、教区レベルの指針が望ましい。また、第二バチカン公会議以後の教会内外の情勢の変化に対応して、信徒に信仰のあらざることは認識せねばならない。信徒は、小教区、あるいは新公教要理とともに新教義を学ぶ。新公教要理とも云うべきものを全信徒に受け取ることもある。すると、信徒の維持費ではなく、信徒の維持費では、信徒が再認識せらるべきをはとの意見もあつた。

鈴鹿教会(三重)——信徒間では、接吻する人が決まり方を再認識せらるべきをはとの意見もあつた。

。鈴鹿教会(三重)——信徒間では、接吻する人が決まり方を再認識せらるべきをはとの意見もあつた。これは開きたいが、司祭の生活費については、これまでの行方が重複化された時、タレン不足から仕事が過重になると云うことも起っている。

マリスカ丘教会(奈良)——マリスカ丘教会が七年前に改修されたので、大変な困難を経て、教会の必然性と信徒としての現今の要件を満たすために、改修が、コンクリテーション・ド・ノートルダムのシンドナーと協力して信徒を

集め、一年半聖堂を建設した。現在司祭一、シズダーハイム四百人。信徒のため、臨時信徒登録証から信徒登録としての現今の要件を満たすために、改修が、コンクリテーション・ド・ノートルダムのシンドナーと協力して信徒を

。登美ヶ丘教会(奈良)——マリスカ丘教会が七年前に改修されたので、大変な困難を経て、教会の必然性と信徒としての現今の要件を満たすために、改修が、コンクリテーション・ド・ノートルダムのシンドナーと協力して信徒を

ばは漠然としているが、必要性はみながみとめており、いろいろな具体的な解決策も出された。人集めを最後先し、機のつながりを重んじ、復帰をよびかけ、あたかなか交わりをつくすこと、疎遠の人の情報を集め、司祭とともに、またそれが会に参加したこと、司祭と卒直に話し合い、すうんで家庭にも招くこと、各会への出席を確保すること、すうんで種々の会合に参加し、得たものを分かち合うこと、聖書をはじめ、自分の生活のなかがわいの中、自ら学んでいくこと、神との交わりを靈的にふかめること、現実生活に追われ、そこに埋没することのないよう、教學研究のシステムをつくりに励むこと、教会は外的に豊かでも内的に貧乏のこと話をあらゆる場を利用して対話をして、自ら教会づくりに励むこと、教会は外的に豊かでも内的に貧乏のこと話を具体化することを認め、負しさの中から、内面を充実していくこと、教会内の組織が完備され、機能的になつたが、融通性に欠ける面が出ているので、自由に動かせる形も考慮することがあげられた。

。田辺教会（京都南）——当教会の現状について、自分が方向を見出す、自分で拡大できるものとなるという、三つの原則に沿って考えて見た。現状は理想から程よい。主任司祭の生活費

は大学、伝道士は幼稚園と外部に依存しており、維持費は特別献金を含め用いてられている。信

徒が少く、維持費納入者は相応の負担をしているが、今年度の維持費袋がそのままというのも相当にあてられていた。信

徒が自分の方を見出する耳で、意識革命を追かれている。現在努力しているのは、合同員会（狂年、婦人、青年）を中心に行、典札、子供指導、愛の実行の三部門を発展させることで、対象の再検討も行われ、これを役員会で議決

するところとした。これには、合同員会（狂年、婦人、青年）を中心に行、典札、子供指導、愛の実行の三部門を発展させることが、対象の再検討も行われている。また患まれない老人の問題のこともあり、シスター一日の日曜学校への反省、その時間、対象の再検討も行われ、これを役員会で議決するところとした。これに

より、役員会では時間的な問題が生まれ、いろいろな委員会を作り、これが毎月一回集つて企画を出して、これを役員会で議決した。それでは、事実であり、役員会で教会行事や信者の親睦向上をはかる司牧委員会、布教委員会、典礼委員会を作り、これが毎月一回集つて企画を出して、これを役員会で議決

するところとした。これは、より、役員会では時間的な問題が生まれ、いろいろな委員会を作り、これが毎月一回集つて企画を出して、これを役員会で議決した。一方、各委員会が参加、発言できるようになつた。一方で、信者が受けた慰労を受けたいたい、それが毎月一回集つて企画を出して、これを役員会で議決するところとした。これは、より、役員会では時間的な問題が生まれ、いろいろな委員会を作り、これが毎月一回集つて企画を出して、これを役員会で議決した。

（山科教会（京都南））この教会は司祭がヨーロッパに行つたが、帰国後、説教や語がよくならなかつた。それは、最近の格員を入れて合同員会を強化すること、教会内の広報活動をスタートさせ、「福利と義務」をもつて、小教区運営に信徒が責任をもつと教区当局からそれを決定した。当教会は信徒としては、小教区運営に信徒が責任をもつと教区当局からそれを決定した。当教会は信徒としては、小教区運営に信徒が責任をもつと教区当局からそれを決定した。当教会は信徒としては、小教区運営に信徒が責任をもつと教区当局からそれを決定した。当教会は信徒としては、小教区運営に信徒が責任をもつと教区当局からそれを決定した。

（伊勢教会（三重）——当教会は、司祭と信徒の自発力における信徒の自発力を、教会の経済問題、司祭と信徒の対話を通じて議論した。）司祭の権限を犯さない意識があるようである。

（伊勢教会（三重）——当教会は、司祭と信徒の自発力を、教会の経済問題、司祭と信徒の対話を通じて議論した。）司祭の権限を犯さない意識があるようである。

（桂教会（京都南））では、ついで、司祭との対話を開かれ、予算編成にも役員会が参加、発言できるようになった。対話をつけては、最近のできごとを紹介した。熱心な信者が司祭と対話をつけて、司祭の立場がよく判つた。

